



次世代建設産業モデル研究会 28年度経営戦略研究講座について

早稲田大学次世代建設産業モデル研究会代表 嘉納成男

1. 研究講座開設の背景と目的

当研究会も今年度で6年目を迎えることとなり、これまでの研究成果をもとに、その実践力を高める経営戦略研究講座を昨年に続き行います。

現在、建設産業は首都圏を中心に活況を呈しています。しかし、現場技能者の不足や資材高騰などの課題も顕在化しており、その先には市場の漸減も予想されます。

その中で、企業が持続的発展を目指すためには、現在の増加した仕事量をこなしながら、同時に他社に勝る競争力を強化する両面作戦が必要になります。そのためには、自社のコスト削減と競争力の強化を早急に図ることと、中長期的な戦略経営の推進を同時に進める必要があります。

特に、産業成熟化の中で企業が取るべき戦略は、成長社会のそれとは異なり競争戦略が中心になります。しかし建設産業は他産業とは異なるプロジェクト対応の受注産業が多く、そのため

①優れたノウハウと人材がありながらそれを生かした事業の多角化が図りにくい、

②人への依存度が高く、部門間の人材交流が少なく全社的視点を持ったマネジメント人材が育ちににくいなどの課題があります。(図参照)

研究会で検討した先進事例などをモデルに、こうした課題の解決策を考えるため、本年度のテーマを「建設産業における企業力強化の方策を考える」とし、月一回のペースでテーマごとに8回の講義と討議を行うもので、企業の事業戦略を検討し実践する際の参考に資することを目的としております。受講者は企業経営者および事業企画スタッフを対象としています。

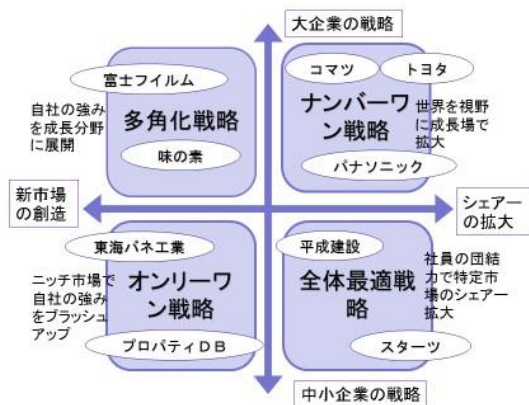


図. 経済成熟化の中で取るべき経営戦略

	建設会社	一般製造業
生産の基本形	注文⇒現場で一品生産 かつ 一件が大きく複雑	工場で量産⇒販売 かつ 一商品が小さい
企業活動の特性	プロジェクト対応 受注後に協力会社に発注 人が主体のシステム産業	計画発注⇒平準化可能 受注後の見込み生産が可能 生産ライン・装置が主体
経営上の課題	プロジェクト収支で管理 現場の真のコストが判らない 工事中のリスクが読めない	生産ラインで基本コストが決定 分割産業の効率化と 不良率の削減
利益追求の手段	工事原価の削減高向上と ムダ・ムラの削減と リスクの早期対応	個別作業の効率化と 不良率の削減 稼働率の向上が収益に寄与
利益確保の課題	失われた20年で弱体化した 現場力の再強化	作業マニュアルと 生産設備の改善
利益確保策	全体最適化戦略の推進	個別工程の改善活動(QC活動)

図. 建設会社の生産性向上と製造業の違い

2. 各回の講義内容

- ①次世代建設産業モデルと産業成熟化における企業の成長戦略（競争力強化の方策）
- ②海外企業の動向調査と国内企業の海外展開調査から考える日本企業の戦略課題
- ③建設産業の産業構造特性から考える課題と成長戦略の展開方策
- ④先進事例研究：成功企業に見る企業力強化の実現ポイント
- ⑤競争力強化に向けた企業マネジメントの在り方を考える
- ⑥企業力強化に向けた研究・開発の在り方を考える
- ⑦企業力強化に向けた現場力強化の方策を考える
- ⑧ワークショップ：事業変革に向けた経営計画のポイントと推進の方策

なお講座の進行により若干の変更もありますので了承下さい。

3. 申し込みについて

講座の日程および費用は以下の通りです。

活動：毎月1回開催（原則第4火曜日の18時～20時）、
全8回（5月～1月で、12月は休講）、第1回は5月24日（火）

場所：早稲田大学西早稲田キャンパス 55号館S棟会議室

募集人員：50名

費用：入会金2万円（新規入会企業のみ）、年会費（受講料）1名5万円（複数参加可）

なお当研究会は、企業会員を基本に運営しているので、新規参加者は次世代建設産業モデル研究会の準会員として企業の入会と、受講者の登録を併せてお願いいたします。

参加希望者は、下記連絡先アドレスにご連絡を頂けます様お願い申し上げます。こちらから、申込書をお送り致します。

お問い合わせ先：〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1 55号館S棟509A

早稲田大学理工学術院次世代建設産業モデル研究会事務局：五十嵐 健

電話：03（5286）3108

E-mail：s.sugimoto3@kurenai.waseda.jp